

沖の島で「春のウォーキング」

4月14日、宿毛市沖の島にて、黒潮町スポーツ推進委員引率のもと「春のウォーキング」が行われました。

当日は好天に恵まれ、時折吹く潮風が心地よく火照った体を癒してくれました。島の中心に座る妹背山に登り、太平洋と小さな島々が春霞に包まれ幻想的な景色が望めました。昼食後、下山し、母島港から弘瀬港まで海岸沿いの道をウォーキングしました。

長距離のウォーキングとなり、参加者の顔には疲れが出ていましたが、歩き切った充足感で帰りの船はみなぐつぐつと眠りについていました。



妹背山の頂上で記念写真。次回、「秋のウォーキング」は11月に実施予定です。

坂折地区にカツオのぼり泳ぐ



5月の青空を泳ぐ青いカツオのぼり。好天に恵まれ、たくさんの方が訪れました。

今年も4月下旬から5月上旬にかけて坂折地区で川渡しが行われました。カツオのぼり51匹、鯉のぼり51匹を伊与木川に渡し、堤防や橋に鯉のぼり20匹と紙鯉のぼり100匹、Tシャツ25枚を展示。

また、5月3日の「第6回川渡しフェスティバル」には約500人が来場。佐賀中学校吹奏楽部の演奏、紙鯉のぼりの絵付け教室、紙鯉のぼりのプレゼントなどがあり、多くの家族連れでにぎわいました。

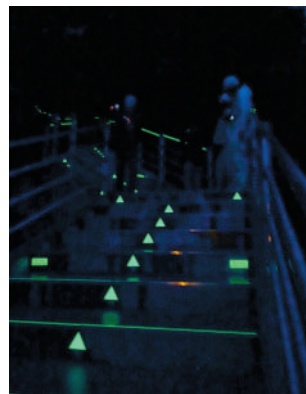
【関連記事3ページ】

暗闇時避難「蓄光材」効果検証

4月20日、明神地区で夜間避難訓練形式による「暗闇時高台避難の誘導に関する実験」が行われました。黒潮町と土木学会地震工学委員会、漁港漁場漁村総合研究所が実施したもので、明神地区の住民を中心に約100人が参加。大規模災害ですべての照明が消えたと想定し、暗闇での避難行動の課題や、日中ため込んだ光を発光する高性能の蓄光材を使用した避難誘導材の効果を確認しました。

実験に参加した方からは、「蓄光材がある方が断然登りやすい」「もっと明るく光るかと思っていた」などの感想が聞かれました。

今回の参加者アンケートは、土木学会地震工学委員会にて取りまとめと分析を行い、結果は今後の防災事業に反映していきたいと考えています。（南海地震対策係）



観音堂への避難階段に設置された蓄光材。

四万十市出身・井上淳哉さんの人気コミック寄贈される



「地元の皆さんにもっと知っていただきたい」と話す井上博之(右)さんと齡子さん。

四万十市出身の漫画家・井上淳哉さんの人気コミック「BTOM」の1巻から最新11巻を、父・博之さんと母・齡子さんから、寄贈していただきました。

「BTOM」は、平成21年から週刊コミックバンチで連載されており、このたびコミックス累計発行部数が200万部を突破。24年にはアニメ化もされました。淳哉さんは、四万十市内の小学校での講演や、書店でのサイン会も行っています。

この漫画は、大方あかつき館内「ふれあいコーナー」に設置していますので、ぜひご覧ください。